

北広島町景気動向調査
(平成 28 年 10 月～平成 29 年 3 月期調査)

北広島町商工会

北広島町景気動向調査 (DI)

(平成 28 年 10 月～平成 29 年 3 月期調査)

1. 全体の概要

(1) 町内の景気動向

～全国的には回復傾向も見られるものの、町内は依然として業種を問わず厳しい景況動向～

	全業種						
	北広島町			全国		広島県	
	前期	今期	来期の見通し	前期	今期	前期	今期
売上	▲ 30.5	▲ 38.8	▲ 54.5	▲ 23.0	▲ 16.9	▲ 25.2	▲ 27.2
資金繰り	▲ 22.1	▲ 28.5	▲ 34.6	▲ 23.3	▲ 15.4	▲ 17.2	▲ 11.5
採算 (経常利益)	▲ 38.6	▲ 27.6	▲ 47.8	▲ 18.6	▲ 18.8	▲ 22.0	▲ 28.6
業況 (自社)	▲ 36.5	▲ 23.9	▲ 45.9	▲ 25.3	▲ 20.2	▲ 29.5	▲ 16.8

(対象：町内小規模事業者 40 社 回答：40 社)

注1) DI (景気動向指数) は各調査項目について、増加 (好転) 企業割合から減少 (悪化) 企業割合を差し引いた値を示す

注2) 全国調査は全国商工会連合会小規模企業景気動向より抜粋

注3) 広島県調査は広島県内 13 商工会を対象に、経営指導員による訪問面接調査にて実施したものより抜粋

当商工会が実施した北広島町における平成 28 年 10 月～平成 29 年 3 月期の景況であるが、産業全体の業況 DI (景気動向指数・前年同月比) は▲23.9、全国値は▲20.2、広島県値は▲16.8 となっており、当地域は全国値よりも低くなっている。

また、前期との比較については、北広島町においては、採算と業況について回復が見られるものの、売上と資金繰りについては、前期より下降、また来期の見通しは全ての項目について下落となっており、今後に向けてより一層厳しさが見込まれる。

全国や広島県の D I 値は、若干の景気回復が見られ始めているものの、北広島町においては未だ景気は冷え込んでおり、業種を問わず今後も厳しさが見込まれる。

(2) 設備投資について

【今期実施】

	製 造	建 設	小 売	サービ	合 計
実施した	1	2	4	3	10
実施していない	7	7	6	10	30
合 計	8	9	10	13	40

【実施内容】

	製 造	建 設	小 売	サービ	合 計
土 地	0	0	0	0	0
工場建物	0	1	0	0	1
生産設備	0	0	2	2	4
車両・運搬具	0	0	2	0	2
付帯設備	1	0	1	2	4
OA 機器	0	0	0	0	0
福利厚生施設	0	0	0	0	0
その他	0	1	1	1	3
合 計	1	2	6	5	14

今期（平成 28 年 10 月～平成 29 年 3 月）の設備投資の実施状況であるが、いずれの業種においても「実施していない」が「実施した」を大きく上回り、全体では設備投資の実施割合は 25%と全体の 4 分の 1 である。また、設備投資の内容を見てみると、小売業・サービス業で生産設備への投資を中心として、それぞれ 6 件、5 件と見られるものの、製造業、建設業ではそれぞれ 1 件、2 件の投資となっており、景気不透明感からの慎重さも伺える。

【次期実施予定】

	製 造	建 設	小 売	サービ	合 計
計画している	1	3	2	4	10
計画していない	7	6	8	9	30
合 計	8	9	10	13	40

【実施予定内容】

	製 造	建 設	小 売	サービ	合 計
土 地	0	0	0	0	0
工場建物	0	2	1	1	4
生産設備	0	2	0	2	4
車両・運搬具	0	0	0	0	0
付帯設備	0	0	1	2	3
OA 機器	1	0	0	0	1
福利厚生施設	0	0	0	0	0
その他	0	0	1	0	1
計	1	4	3	5	13

次期の設備投資計画についても、全体でも「計画している」と答えた割合は 25%とこちらも低迷状態である。また業種別に見てみると、サービス業が、計画見込および内容とも最も多い。

一方で、製造業については設備投資が、OA 機器の 1 件となっている。

2. 業種別景況について

(1) 製造業

～需要の停滞により厳しさが続き、見通し不透明の中、新たな取り組みの芽もある～

【前期からの推移と全国及び県内（商工会地域）との比較】

業種	製造業				
	北広島町			全国	広島県
	前期	今期	来期の見通し	今期	今期
売上	▲ 50.0	▲ 42.9	▲ 71.4	▲ 8.4	▲ 4.5
資金繰り	▲ 37.5	▲ 42.9	▲ 42.9	▲ 13.8	▲ 9.1
採算(経常利益)	▲ 50.0	▲ 57.1	▲ 50.0	▲ 16.6	▲ 7.0
業況(自社)	▲ 37.5	▲ 50.0	▲ 62.5	▲ 15.0	▲ 20.4

【当面の問題点ベスト3】

- ①需要の停滞
- ②製品単価の低下・上昇難
- ③原材料価格の上昇 従業員の確保難

【新たな取り組み】

新たな取り組み	件数
した	3
していない	5
合計	8

販路開拓の機会	件数
既存顧客ニーズの掘り起こし	6
地域内の新規顧客開拓	0
地域外の新規顧客獲得	3
通信販売	0
他地域への進出	1
その他	0
合計	10

当地域の製造業の景気動向であるが、業況 DI が▲50.0 と前期の▲37.5 から下落しているが、来季の見通しも▲62.5 と、さらに下落の見込みである。

全国値が▲15.0 広島県の商工会地域が▲20.4であることを考えると、当地域における製造業の先行き不透明感は、依然として予断を許さない状況にある。

問題点は需要の停滞、製品単価の低下、原材料価格の上昇、従業員の確保難と続いているが、これらについては、事業者の声としても反映されており、事業者の肌感覚としての景気動向は厳しさがうかがえる

また、新たな取り組みについては、3社が取り組んでいるとしている。販路開拓の機会については、既存顧客のニーズの掘り起こしにあると考えていることがわかる。

【事業者の声】

- 2019年に向けて、需要が拡大基調ではあるが、同業他社、東南アジア製品との競争は厳しさを増しており、予断を許さない状況が続いている。
- 今年度も明るい光がみえない。特に建築の方は厳しいように感じる。
- 人口減少、少子化社会、インターネット通信販売、新規参入業者の増加等業界を取りまく状況は厳しくなっている。資金力のない中小企業は廃業に追い込まれていく時代になっていく。
- 上水道、簡易水道に付帯するステンレス製品を主としていますが、施設の普及率も上り、伴って仕事量が減少しています。また、もう一つの柱の避難用スベリ台も同様の傾向にあります。

(2) 建設業

～依然として、官民需要の停滞により厳しさが見られる～

【前期からの推移と全国及び県内（商工会地域）との比較】

業種	建設業				
	北広島町			全国	広島県
	前期	今期	来期の見通し	今期	今期
売上	▲ 22.2	▲ 44.4	▲ 11.1	▲ 55.6	▲ 34.4
資金繰り	▲ 33.3	▲ 11.1	▲ 15.9	▲ 22.2	12.5
採算(経常利益)	▲ 44.4	0.0	▲ 20.1	▲ 62.5	▲ 34.4
業況(自社)	▲ 44.4	0.0	▲ 15.4	▲ 50.0	▲ 12.5

【当面の問題点ベスト3】

- ①官公需要の停滞
- ②民間需要の停滞
- ③請負単価の低下・上昇難

【新たな取り組み】

新たな取り組み	件数
した	5
していない	4
合計	9

販路開拓の機会	件数
既存顧客ニーズの掘り起こし	5
地域内の新規顧客開拓	3
地域外の新規顧客獲得	6
通信販売	1
他地域への進出	3
その他	0
合計	18

当地域の建設業の業況であるが、業況 DI は当地域が 0 に対して、全国が▲50.0、広島県（商工会地域）が▲12.5 となっており回復傾向にあるが、これについては、今後の見通しを見ると事業者の声にもあるように一時的なものとの見方もできる。

その他、景気の低迷に感覚的に慣れてしまったという事業者の声にもみられるように、景気の不透明感の馴れによる、DI 値の上昇感も否めない。

問題点は、前期に引き続き官民の需要の停滞が大きく占めている。その中で、新たな取り組みを始めることで活路を見出そうとしている事業者もある。

販路開拓の機会は地域外の新規顧客開拓が最も多く、次いで既存顧客ニーズの掘り起こしと続いており、地域内の新規顧客開拓を上回っている。

【事業者の声】

- 予測が出来ない。
- 地域外の受注に伴い、経費の増加が著しい。
- 前年同期に比べてたまたま良かったというだけです。依然として今後の不安は消えません。
- 景気も全く良くなりならず、人口減少も重なり、全体的に落ち込んでいる今です。明るい見通しを全く感じません。公共工事が少ないことにも、慣れてしまった。

(3) 小売業

～業況は全国レベルで厳しさが伺え、当地域においては購買力の流出の防止が課題～

【前期からの推移と全国及び県内（商工会地域）との比較】

業種	小売業				
	北広島町			全国	広島県
	前期	今期	来期の見通し	今期	今期
売上	▲ 11.1	▲ 60.0	▲ 60.0	▲ 28.7	▲ 30.1
資金繰り	▲ 10.0	▲ 44.4	▲ 50.0	▲ 19.0	▲ 23.8
採算(経常利益)	▲ 44.4	▲ 30.0	▲ 40.0	▲ 23.3	▲ 36.5
業況(自社)	▲ 33.3	▲ 30.0	▲ 55.6	▲ 29.9	▲ 22.6

【当面の問題点ベスト3】

- ①購買力の他地域への流出
- ②大型店・中型店の進出による競争の激化
- ③消費者ニーズの変化への対応

【新たな取り組み】

新たな取り組み	件数
した	2
していない	7
合計	9

販路開拓の機会	件数
既存顧客ニーズの掘り起こし	5
地域内の新規顧客開拓	5
地域外の新規顧客獲得	5
通信販売	1
他地域への進出	1
その他	0
合計	17

当地域の小売業の業況であるが、今期は▲30.0、来期の見通しは▲55.6と全国及び広島県のDIを大きく下回っている。また、売上、採算、資金繰りについても同様で、当地域における小売業の厳しさが伺える。

次に、当面の問題点であるが、①購買力の他地域への流出、②大型店・中型店の進出による競争の激化、③消費者ニーズの変化への対応となっている。これらからは、需要そのものの停滞もあるが、その需要が他地域へ流れていることがわかり、事業者側としても今後の経営について工夫の必要性が感じられる。今後の経営における工夫の中で新たな取り組みは欠かせないが、「していない」が「した」を大きく上回っており、新たな取り組みの難しさも感じられる。販路開拓の機会は、既存顧客ニーズの掘り起こし、地域内の新規顧客開拓、地域外の新規顧客獲得が同数となっている。

【事業者の声】

- 今期も来期も状況は変わっていません。まだまだ企業努力が必要かと思えます。地域密着で地域に根付いたサービスを提供しユーザー離れに取り組んでいきたいです。
- 一部の商品の売上が伸びても全体の売上が上がらない。地域の市場規模が大きくならないので商品間の人気の上げ下げだけで全体の売上拡大につなげていない。

(4) サービス業

～全国値との比較でも厳しさが伺え、今後も利用者ニーズの変化への対応は課題～

【前期からの推移と全国及び県内（商工会地域）との比較】

業種	サービス業				
	北広島町			全国	広島県
	前期	今期	来期の見通し	今期	今期
売上	▲ 38.5	▲ 7.7	▲ 30.8	▲ 19.6	▲ 39.6
資金繰り	▲ 7.7	▲ 15.4	▲ 23.1	▲ 12.8	▲ 25.5
採算(経常利益)	▲ 15.4	▲ 23.1	▲ 38.5	▲ 15.4	▲ 36.6
業況(自社)	▲ 30.8	▲ 15.4	▲ 15.4	▲ 20.3	▲ 11.5

【当面の問題点ベスト3】

- ①利用者ニーズの変化への対応
- ②材料等仕入単価の上昇
- ③店舗施設の狭隘・老朽化 新規参入者の増加 需要の停滞

【新たな取り組み】

新たな取り組み	件数
した	4
していない	8
合計	12

販路開拓の機会	件数
既存顧客ニーズの掘り起こし	6
地域内の新規顧客開拓	7
地域外の新規顧客獲得	5
通信販売	0
他地域への進出	1
その他	0
合計	19

サービス業における当地域の業況 DI は▲15.4 であり、前期が▲30.8 であったことを考えると、下げ止まり傾向も見られる。

当面の問題点ベスト3であるが、利用者ニーズの変化への対応がトップとなっており、サービス業として利用者のニーズを把握したい旨が伺える。

次に、新たな取り組みであるが、「した」が4人、「していない」が8人と問題点では利用者ニーズの変化への対応となっているものの、実際にそれに取り組むことの難しさを表している。また、販路開拓の機会は、地域内の新規顧客開拓に次いで既存顧客ニーズの掘り起こしが続いている。

【事業者の声】

- 従業員に対し、ありがたいことに十分な顧客フルでお店がまわっている。従業員を増やすべきか、着実に現状を大切にすべきかが、悩みどころ。
- 今までのお客さんは、段々年を取り施設に入ったり死亡の為減っていき若い人は、取り次ぎ店に出す人が多く客数は減るばかりです。
- 地域が疲弊し、町の中心地である千代田のみが活気づき働く者の数が減少している為、消費の拡大は望めない。芸北地域だけでは売上アップは期待できないので、他地域へのアプローチも考えてゆく必要をかんじている。
- 客数、客単価は上がらない。料金も値上げできない。でも仕入れ値は上がるので、経費削減、新規客を増やす努力をしていかなければいけない。
- 良くも悪くもといった感じだけど、好転する見込みは無い事と思っている。
- 客層の高齢化や新規の客の集客難及び客単価が伸びない。

3. その他

(1) 内閣府景気ウォッチャー調査から見る景気の行き先判断

(11) 中国													
合計（家計動向関連＋企業動向関連＋雇用関連）													
	回答者数（人）					回答者構成比（％）					D I		
	合計	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	合計	良くなる	やや良くなる	変わらない		やや悪くなる	悪くなる
2016年8月	166	2	28	90	41	5	100.0	1.2	16.9	54.2	24.7	3.0	47.1
2016年9月	169	3	38	92	30	6	100.0	1.8	22.5	54.4	17.8	3.6	50.3
2016年10月	170	1	34	95	37	3	100.0	0.6	20.0	55.9	21.8	1.8	49.0
2016年11月	163	1	41	84	34	3	100.0	0.6	25.2	51.5	20.9	1.8	50.5
2016年12月	163	2	32	88	35	6	100.0	1.2	19.6	54.0	21.5	3.7	48.3
2017年1月	163	3	31	95	29	5	100.0	1.8	19.0	58.3	17.8	3.1	49.7
2017年2月	165	6	43	87	24	5	100.0	3.6	26.1	52.7	14.5	3.0	53.2
2017年3月	168	2	36	97	21	12	100.0	1.2	21.4	57.7	12.5	7.1	49.3
2017年4月	168	5	40	93	25	5	100.0	3.0	23.8	55.4	14.9	3.0	52.2
2017年5月	167	3	40	96	22	6	100.0	1.8	24.0	57.5	13.2	3.6	51.8
2017年6月	164	1	42	97	16	8	100.0	0.6	25.6	59.1	9.8	4.9	51.8
2017年7月	166	1	43	101	18	3	100.0	0.6	25.9	60.8	10.8	1.8	53.2
2017年8月	166	3	32	110	19	2	100.0	1.8	19.3	66.3	11.4	1.2	52.3
2017年9月	168	2	42	97	22	5	100.0	1.2	25.0	57.7	13.1	3.0	52.1
2017年10月	164	2	45	94	15	8	100.0	1.2	27.4	57.3	9.1	4.9	52.7
2017年11月	168	7	30	99	22	10	100.0	4.2	17.9	58.9	13.1	6.0	50.3
家計動向関連（小売関連＋飲食関連＋サービス関連＋住宅関連）													
	回答者数（人）					回答者構成比（％）					D I		
	合計	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	合計	良くなる	やや良くなる	変わらない		やや悪くなる	悪くなる
2016年8月	115	1	21	63	26	4	100.0	0.9	18.3	54.8	22.6	3.5	47.6
2016年9月	118	2	26	62	23	5	100.0	1.7	22.0	52.5	19.5	4.2	49.4
2016年10月	118	0	22	64	30	2	100.0	0.0	18.6	54.2	25.4	1.7	47.5
2016年11月	113	0	23	65	23	2	100.0	0.0	20.4	57.5	20.4	1.8	49.1
2016年12月	113	0	19	62	27	5	100.0	0.0	16.8	54.9	23.9	4.4	46.0
2017年1月	113	2	20	65	23	3	100.0	1.8	17.7	57.5	20.4	2.7	48.9
2017年2月	114	3	31	61	15	4	100.0	2.6	27.2	53.5	13.2	3.5	53.1
2017年3月	117	1	25	68	13	10	100.0	0.9	21.4	58.1	11.1	8.5	48.7
2017年4月	118	3	22	71	18	4	100.0	2.5	18.6	60.2	15.3	3.4	50.4
2017年5月	117	2	24	72	14	5	100.0	1.7	20.5	61.5	12.0	4.3	50.9
2017年6月	115	1	26	70	11	7	100.0	0.9	22.6	60.9	9.6	6.1	50.7
2017年7月	116	0	27	73	14	2	100.0	0.0	23.3	62.9	12.1	1.7	51.9
2017年8月	117	1	19	81	14	2	100.0	0.9	16.2	69.2	12.0	1.7	50.6
2017年9月	118	1	26	69	18	4	100.0	0.8	22.0	58.5	15.3	3.4	50.4
2017年10月	115	1	32	64	11	7	100.0	0.9	27.8	55.7	9.6	6.1	52.0
2017年11月	117	5	17	66	19	10	100.0	4.3	14.5	56.4	16.2	8.5	47.4

この内閣府景気ウォッチャー調査は、地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域ごとの景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とすることを目的としている。

平成28年8月から平成29年11月までの「今後の景気の見通し」について、回答者を見ると、「変わらない」がどの月も多く、景気の見通しはもうしばらくは現状維持であることが伺える。

（参考資料：内閣府 景気ウォッチャー調査平成29年11月）

※内閣府ホームページより

(2) 新設住宅着工戸数から見る景気の先行き判断

	合計	持家	貸家	給与	分譲	戸建	長屋建	共同建
H24年	50	28	19	0	3	34	16	0
H25年	68	40	24	0	4	44	24	0
H26年	106	38	59	4	5	44	58	4
H27年	73	37	30	0	6	43	30	0
H28年	55	45	7	0	3	47	8	0
H29年	77	31	45	0	1	33	16	28
平成29年1～10月までの内訳								
H29/1	23	1	22	0	0	1	0	22
H29/2	8	1	6	0	1	2	0	6
H29/3	7	7	0	0	0	7	0	0
H29/4	3	3	0	0	0	3	0	0
H29/5	13	3	10	0	0	3	10	0
H29/6	4	4	0	0	0	4	0	0
H29/7	5	4	1	0	0	5	0	0
H29/8	3	3	0	0	0	3	0	0
H29/9	2	2	0	0	0	2	0	0
H29/10	9	3	6	0	0	3	6	0

(参考資料：広島県新設住宅着工戸数より北広島町を抜粋)

※広島県ホームページより

平成29年の1～10月までの、北広島町における新築住宅着工件数を見てみると合計で77件となっており、10か月経過した時点で昨年の55件を上回っている。これは、1月が22件、5月が10件であったことによるものである。

それ以外の月は、依然として低調であり、引き続き今後の動向に注目しておく必要がある。

【新設住宅着工件数とは??】

新設住宅着工は住宅投資の動きを見るためのものであるが、単に建設業や建材といった、関連産業だけでなく、住宅の新築によって家具や家電、その他生活に関する消耗品等の買い換えに大きな影響を与えるため、今後の景気動向を先取りする指数（先行指数）として、有効なものとして予測ができる。

新設住宅とは、届出のあった住宅工事のうち、新築、増改築によって住宅の「戸」が新たに増加した工事を対象としている。

(3) 日経 MJ からみる 2017 年ヒット番付

東			西		
	商品名	寸評		商品名	寸評
横綱	アマゾン・エフェクト	生鮮宅配など領域を拡大。衣料品販売や音楽・動画配信でも存在感を示し生活に「影響」を与えた。	横綱	任天堂ゲーム機	据え置き型の「スイッチ」は携帯もできる先進性が受け9月末までに763万台を販売
大関	安室奈美恵	一世を風靡した歌姫が今秋に電撃引退を発表	大関	AI スピーカー	人工知能を搭載し音声操作で音楽再生や買い物などが可能
関脇	GINZASIX	国内外の高級ブランド旗艦店がそろそろ東京・銀座最大の商業施設	関脇	スタートトゥデイ「ゾゾタウン」	P B 衣料向けの採寸センサー付きスーツは8時間で23万件以上の注文
小結	シワ取り化粧品	「シワを改善する」効能が認められた	小結	睡眠負債商品	寝不足による「眠りの借金」解消グッズ

(日経 MJ 2017 年 12 月 6 日号より抜粋)

(4) 日経トレンドィからみる 2018 年ヒット大予測

	商品名	予 測
1	ノーラック AI 家電	AI(人工知能)と連携、ユーザーの意図を読み取る小型家電が生活に革命を起こす。スマホ不要。買い物から家電の操作までが「声」で可能になる。
2	“魅せる”ミールキット	週末にちょっと特別な料理が作れる、“インスタ特化”の食材+レシピキットが話題沸騰。「自炊以上、中食未満」の新たな市場を開拓する。
3	手ぶらで“旬撮”カメラ	ドローンで空から自撮り、ウイנקで見たままを撮影…。手ぶらで「旬」を切り取れる変り種カメラが増え、驚きの写真が SNS にあふれる。
4	燃焼系ウェアラブルジム	既存フィットネスクラブの弱点をテクノロジーで解消した「やせる」「挫折しない」「安い」ジムが上陸。業界を挙げて追従し、一大カテゴリーに。
5	ドローンレーサー	「高くは飛ばさない」まさかの新発想がドローン市場を再浮上させる。初心者に加えてラジコンカーユーザーまでが乗り換え、市場は拡大

(日経トレンドィ 2017.12 月号より抜粋)

4. 北広島町景気動向調査結果資料

(1) 製造業

今期の状況は、前年同期および前期と比較してどうか？

	今期(平成28年10～平成29年3月)の状況								来期(平成29年4月～29年9月)の状況							
	前年同期				前期と比べて				前年同期				来期の見通し			
	良い	同じ	悪い	合計 DI指数	良い	同じ	悪い	合計 DI指数	良い	同じ	悪い	合計 DI指数	良い	同じ	悪い	合計 DI指数
収入・売上額	1	2	4	7	0	1	6	7	0	2	5	7				
(%)	14.3	28.6	57.1	▲42.9	0.0	14.3	85.7	▲85.7	0.0	28.6	71.4	▲71.4				
売上単価	0	4	4	8	0	4	4	8	0	4	4	8				
(%)	0.0	50.0	50.0	▲50.0	0.0	50.0	50.0	▲50.0	0.0	50.0	50.0	▲50.0				
売上数量	2	2	4	8	1	2	5	8	1	2	5	8				
(%)	25.0	25.0	50.0	▲25.0	12.5	25.0	62.5	▲50.0	12.5	25.0	62.5	▲50.0				
資金繰り	0	4	3	7	0	4	3	7	0	4	3	7				
(%)	0.0	57.1	42.9	▲42.9	0.0	57.1	42.9	▲42.9	0.0	57.1	42.9	▲42.9				
輸出額	0	0	0	0					0	0	0	0				
(%)	0.0	0.0	0.0	0.0					0.0	0.0	0.0	0.0				
原材料仕入単価	5	3	0	8					6	2	0	8				
(%)	62.5	37.5	0.0	62.5					75.0	25.0	0.0	75.0				
原材料仕入数量	0	6	2	8					0	6	2	8				
(%)	0.0	75.0	25.0	▲25.0					0.0	75.0	25.0	▲25.0				
製品在庫数量	1	5	1	7					1	5	1	7				
(%)	14.3	71.4	14.3	0.0					14.3	71.4	14.3	0.0				
採算(経常利益)	0	3	4	7					0	4	4	8				
(%)	0.0	42.9	57.1	▲57.1					0.0	50.0	50.0	▲50.0				
従業員数	0	4	2	6					0	6	0	6				
(%)	0.0	66.7	33.3	▲33.3					0.0	100.0	0.0	0.0				
外部人材	1	3	0	4					0	4	0	4				
(%)	25.0	75.0	0.0	25.0					0.0	100.0	0.0	0.0				
設備操業率	0	5	3	8					0	4	3	7				
(%)	0.0	62.5	37.5	▲37.5					0.0	57.1	42.9	▲42.9				
引き合い	0	2	4	6												
(%)	0.0	33.3	66.7	▲66.7												
受注残	1	2	4	7												
(%)	14.3	28.6	57.1	▲42.9												
業況	0	4	4	8	0	3	1	4	0	3	5	8	0	3	5	8
(%)	0.0	50.0	50.0	▲50.0	0.0	75.0	25.0	▲25.0	0.0	37.5	62.5	▲62.5	0.0	37.5	62.5	▲62.5
受取手形期間					0	4	0	4					0	4	0	4
(%)					0.0	100.0	0.0	0.0					0.0	100.0	0.0	0.0
長期資金借入難度					0	5	2	7					0	5	2	7
(%)					0.0	71.4	28.6	▲28.6					0.0	71.4	28.6	▲28.6
短期資金借入難度					0	5	2	7					0	5	2	7
(%)					0.0	71.4	28.6	▲28.6					0.0	71.4	28.6	▲28.6
借入金利					0	6	1	7					0	6	1	7
(%)					0.0	85.7	14.3	▲14.3					0.0	85.7	14.3	▲14.3

過去の比較ではなく今期の業況は？

	今期の水準			
	良い	同じ	悪い	合計 DI指数
業況	1	3	4	8
(%)	12.5	37.5	50.0	▲37.5
採算(経常利益)	2	4	2	8
(%)	25.0	50.0	25.0	0.0
引き合い	1	5	1	7
(%)	14.3	71.4	14.3	0.0
従業員	0	6	3	9
(%)	0.0	66.7	33.3	▲33.3

今期直面している問題点は？

	重要度	製造		
		1	2	3
1	大企業の進出による競争の悪化	0	0	0
2	新規参入業者の増加	0	1	0
3	製品ニーズの変化への対応	0	0	1
4	生産設備の不足・老朽化	0	2	0
5	生産設備の過剰	0	0	0
6	原材料価格の上昇	1	1	0
7	原材料の不足	0	1	0
8	人件費の増加	0	0	1
9	原材料費・人件費以外の経費の増加	0	0	0
10	製品単価の低下・上昇難	1	1	3
11	金利負担の増加	0	0	0
12	取引条件の悪化	0	0	0
13	事業資金の借入難	0	0	0
14	従業員の確保難	1	1	0
15	熟練技術者の確保難	0	0	0
16	需要の停滞	4	0	1
17	その他	0	0	0
合計		7	7	6

(2) 建設業

今期の状況は、前年同期および前期と比較してどうか？

	今期(平成28年10~平成29年3月)の状況								来期(平成29年4月~29年9月)の状況							
	前年同期				前期と比べて				前年同期				来期の見通し			
	良い	同じ	悪い	合計DI指数	良い	同じ	悪い	合計DI指数	良い	同じ	悪い	合計DI指数	良い	同じ	悪い	合計DI指数
完成工事(請負工事)	1	3	5	9	1	3	4	8	1	2	6	9				
(%)	11.1	33.3	55.6	▲44.4	12.5	37.5	50.0	▲37.5	11.1	22.2	66.7	▲55.6				
資金繰り	1	6	2	9	1	5	2	8	0	7	2	9				
(%)	11.1	66.7	22.2	▲11.1	12.5	62.5	25.0	▲12.5	0.0	77.8	22.2	▲22.2				
受注(新規契約工事)額	0	3	6	9					1	2	6	9				
(%)	0.0	33.3	66.7	▲66.7					11.1	22.2	66.7	▲55.6				
原材料仕入単価	2	5	1	8					3	4	1	8				
(%)	25.0	62.5	12.5	12.5					37.5	50.0	12.5	25.0				
採算(経常利益)	2	4	2	8					0	3	5	8				
(%)	25.0	50.0	25.0	0.0					0.0	37.5	62.5	▲62.5				
従業員数	0	8	1	9					0	8	1	9				
(%)	0.0	88.9	11.1	▲11.1					0.0	88.9	11.1	▲11.1				
外部人材(請負・派遣)	0	5	1	6					0	7	0	7				
(%)	0.0	83.3	16.7	▲16.7					0.0	100.0	0.0	0.0				
引き合い	1	4	2	7								0				
(%)	14.3	57.1	28.6	▲14.3								0.0				
契約残(未消化工事)	1	2	5	8								0				
(%)	12.5	25.0	62.5	▲50.0								0.0				
業況	3	3	3	9	3	3	2	8	0	4	4	8	0	4	3	7
(%)	33.3	33.3	33.3	0.0	37.5	37.5	25.0	12.5	0.0	50.0	50.0	▲50.0	0.0	57.1	42.9	▲42.9
受取手形期間					1	2	0	3					1	2	0	3
(%)					33.3	66.7	0.0	33.3					33.3	66.7	0.0	33.3
長期資金借入難度					0	6	1	7					0	6	1	7
(%)					0.0	85.7	14.3	▲14.3					0.0	85.7	14.3	▲14.3
短期資金借入難度					0	6	1	7					0	6	1	7
(%)					0.0	85.7	14.3	▲14.3					0.0	85.7	14.3	▲14.3
借入金利					1	4	0	5					1	4	0	5
(%)					20.0	80.0	0.0	20.0					20.0	80.0	0.0	20.0

過去との比較ではなく今期の業況は？

	今期の水準			
	良い	同じ	悪い	合計DI指数
業況	1	3	4	8
(%)	12.5	37.5	50.0	▲37.5
採算(経常利益)	2	4	2	8
(%)	25.0	50.0	25.0	0.0
引き合い	1	5	1	7
(%)	14.3	71.4	14.3	0.0
従業員	0	6	3	9
(%)	0.0	66.7	33.3	▲33.3

今期直面している問題点は？

	重要度	建設		
		1	2	3
1 大企業の進出による競争の悪化		0	0	0
2 新規参入業者の増加		0	0	0
3 材料価格の上昇		0	0	1
4 材料の入手難		0	0	0
5 人件費の増加		0	0	0
6 原材料費・人件費以外の経費の増加		0	0	0
7 請負単価の低下・上昇難		1	0	2
8 下請け価格の上昇		0	0	0
9 金利負担の増加		0	0	0
10 取引条件の悪化		0	0	1
11 事業資金の借入難		0	0	1
12 従業員の確保難		1	0	1
13 熟練技術者の確保難		0	0	0
14 下請業者の確保難		0	1	0
15 官公需要の停滞		6	1	0
16 民間需要の停滞		0	6	1
17 その他		0	0	0
合計		8	8	7

(3) 小売業

今期の状況は、前年同期および前期と比較してどうか？

	今期(平成28年10~平成29年3月)の状況								来期(平成29年4月~29年9月)の状況							
	前年同期				前期と比べて				前年同期				来期の見通し			
	良い	同じ	悪い	合計DI指数	良い	同じ	悪い	合計DI指数	良い	同じ	悪い	合計DI指数	良い	同じ	悪い	合計DI指数
売上額	0	4	6	10	0	4	6	10	1	2	7	10				
(%)	0.0	40.0	60.0	▲60.0	0.0	40.0	60.0	▲60.0	10.0	20.0	70.0	▲60.0				
客単価	0	5	5	10	0	5	5	10	0	4	6	10				
(%)	0.0	50.0	50.0	▲50.0	0.0	50.0	50.0	▲50.0	0.0	40.0	60.0	▲60.0				
客数	0	5	5	10	0	5	5	10	0	3	7	10				
(%)	0.0	50.0	50.0	▲50.0	0.0	50.0	50.0	▲50.0	0.0	30.0	70.0	▲70.0				
資金繰り	0	5	4	9	0	5	5	10	0	5	5	10				
(%)	0.0	55.6	44.4	▲44.4	0.0	50.0	50.0	▲50.0	0.0	50.0	50.0	▲50.0				
商品仕入単価	2	5	3	10					3	4	3	10				
(%)	20.0	50.0	30.0	▲10.0					30.0	40.0	30.0	0.0				
商品仕入額	2	4	4	10					3	4	3	10				
(%)	20.0	40.0	40.0	▲20.0					30.0	40.0	30.0	0.0				
商品在庫数量	0	5	5	10					1	5	4	10				
(%)	0.0	50.0	50.0	▲50.0					10.0	50.0	40.0	▲30.0				
採算(経常利益)	1	5	4	10					1	4	5	10				
(%)	10.0	50.0	40.0	▲30.0					10.0	40.0	50.0	▲40.0				
従業員数	1	7	0	8					1	7	0	8				
(%)	12.5	87.5	0.0	12.5					12.5	87.5	0.0	12.5				
外部人材(請負・派遣)	0	5	0	5					0	5	0	5				
(%)	0.0	100.0	0.0	0.0					0.0	100.0	0.0	0.0				
業況	1	5	4	10	0	5	4	9	0	4	5	9	0	5	5	10
(%)	10.0	50.0	40.0	▲30.0	0.0	55.6	44.4	▲44.4	0.0	44.4	55.6	▲55.6	0.0	50.0	50.0	▲50.0
長期資金借入難度					0	6	2	8					0	6	2	8
(%)					0.0	75.0	25.0	▲25.0					0.0	75.0	25.0	▲25.0
短期資金借入難度					1	4	3	8					1	4	3	8
(%)					12.5	50.0	37.5	▲25.0					12.5	50.0	37.5	▲25.0
借入金利					1	8	0	9					1	7	0	8
(%)					11.1	88.9	0.0	11.1					12.5	87.5	0.0	12.5

過去との比較ではなく今期の業況は？

	今期の水準			
	良い	同じ	悪い	合計DI指数
業況	1	5	3	9
(%)	11.1	55.6	33.3	▲22.2
売上に対する在庫	2	7	0	9
(%)	22.2	77.8	0.0	22.2
採算(経常利益)	1	5	3	9
(%)	11.1	55.6	33.3	▲22.2
従業員	0	7	1	8
(%)	0.0	87.5	12.5	▲12.5

今期直面している問題点は？

	重要度	小売			
		1	2	3	
1	大型店・中型店の進出による競争の激化	2	1	0	8
2	同業者の進出	0	2	0	4
3	購買力の他地域への流出	2	2	1	11
4	消費者ニーズへの変化への対応	1	1	2	7
5	店舗の狭隘・老朽化	1	0	0	3
6	駐車場の確保難	0	1	1	3
7	商品在庫の過剰	0	0	0	0
8	人件費の増加	0	0	1	1
9	人件費以外の経費の増加	0	0	0	0
10	販売単価の低下・上昇難	0	1	0	2
11	仕入単価の上昇	0	0	0	0
12	金利負担の増加	0	0	0	0
13	代金回収の悪化	0	0	0	0
14	事業資金の借入難	1	0	0	3
15	従業員の確保難	0	0	1	1
16	需要の停滞	1	0	0	3
17	その他	0	0	0	0
合計		8	8	6	

(4) サービス業

今期の状況は、前年同期および前期と比較してどうか？

	今期(平成28年10~平成29年3月)の状況								来期(平成29年4月~29年9月)の状況							
	前年同期				前期と比べて				前年同期				来期の見通し			
	良い	同じ	悪い	合計 DI指数	良い	同じ	悪い	合計 DI指数	良い	同じ	悪い	合計 DI指数	良い	同じ	悪い	合計 DI指数
売上額	1	10	2	13	0	8	5	13	0	9	4	13				
(%)	7.7	76.9	15.4	▲ 7.7	0.0	61.5	38.5	▲ 38.5	0.0	69.2	30.8	▲ 30.8				
客単価	1	10	2	13	0	11	2	13	0	11	2	13				
(%)	7.7	76.9	15.4	▲ 7.7	0.0	84.6	15.4	▲ 15.4	0.0	84.6	15.4	▲ 15.4				
利用客数	1	8	4	13	0	7	6	13	0	8	5	13				
(%)	7.7	61.5	30.8	▲ 23.1	0.0	53.8	46.2	▲ 46.2	0.0	61.5	38.5	▲ 38.5				
資金繰り	0	11	2	13	0	10	3	13	0	10	3	13				
(%)	0.0	84.6	15.4	▲ 15.4	0.0	76.9	23.1	▲ 23.1	0.0	76.9	23.1	▲ 23.1				
仕入単価(材料等)	3	9	0	12					0	12	1	13				
(%)	25.0	75.0	0.0	25.0					0.0	92.3	7.7	▲ 7.7				
採算(経常利益)	1	8	4	13					0	8	5	13				
(%)	7.7	61.5	30.8	▲ 23.1					0.0	61.5	38.5	▲ 38.5				
従業員数	0	13	0	13					0	13	0	13				
(%)	0.0	100.0	0.0	0.0					0.0	100.0	0.0	0.0				
外部人材(請負・派遣)	0	10	0	10					0	10	0	10				
(%)	0.0	100.0	0.0	0.0					0.0	100.0	0.0	0.0				
業況	0	11	2	13	0	11	1	12	0	11	2	13	0	11	2	13
(%)	0.0	84.6	15.4	▲ 15.4	0.0	91.7	8.3	▲ 8.3	0.0	84.6	15.4	▲ 15.4	0.0	84.6	15.4	▲ 15.4
長期資金借入難度					0	10	2	12					0	10	2	12
(%)					0.0	83.3	16.7	▲ 16.7					0.0	83.3	16.7	▲ 16.7
短期資金借入難度					0	10	1	11					0	10	1	11
(%)					0.0	90.9	9.1	▲ 9.1					0.0	90.9	9.1	▲ 9.1
借入金利					0	11	1	12					0	11	1	12
(%)					0.0	91.7	8.3	▲ 8.3					0.0	91.7	8.3	▲ 8.3

過去との比較ではなく今期の業況は？

	今期の水準			
	良い	同じ	悪い	合計 DI指数
業況	1	10	2	13
(%)	7.7	76.9	15.4	▲ 7.7
採算(経常利益)	4	5	4	13
(%)	30.8	38.5	30.8	0.0
従業員	0	11	2	13
(%)	0.0	84.6	15.4	▲ 15.4

今期直面している問題点は？

	重要度	サービス		
		1	2	3
1	大企業の進出による競争の激化	0	0	0
2	新規参入業者の増加	2	0	1
3	利用者ニーズの変化への対応	3	1	1
4	店舗施設の狭隘・老朽化	0	3	1
5	人件費の増加	0	0	0
6	人件費以外の経費の増加	0	0	0
7	利用料金の低下・上昇難	1	2	0
8	材料等仕入単価の上昇	1	2	3
9	金利負担の増加	0	0	1
10	事業資金の借入難	0	0	0
11	従業員の確保難	1	1	1
12	熟練技術者の確保難	0	0	0
13	需要の停滞	2	0	1
14	その他	0	0	0
合計		10	9	9

※「当面の問題点」の点数は、重要度1の場合は3倍、重要度2の場合は2倍、重要度3の場合は1倍として合計したもの